2010年10月13日

国土交通大臣　　馬渕　澄夫　様

九州地方整備局長　　岡本　　博　様

熊本県知事　　蒲島　郁夫　様

川辺川の治水に関する意見書

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会　代　表　中島　　康
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域群市民の会　代　表　緒方俊一郎
球磨川大水害体験者の会　代　表　堀尾　芳人
川辺川利水訴訟原告団　団　長　茂吉　隆典
美しい球磨川を守る市民の会　代　表　出水　　晃
やつしろ川漁師組合　組合長　毛利　正二
川辺川・球磨川を守る漁民有志の会　代　表　吉村　勝徳

連絡先　中　島　　康

[redacted]

川辺川の治水に関する意見書

私たち住民は、豊かな生態系の恵みをもたらし続ける宝としての球磨川水系を守り、自然の歴史が育んだ流域の自然を守りたいという思いから、ダムによらない治水を求め続けてきました。

流域住民の川を守る根底にある「球磨川そのものがかけがえのない財産であり、守るべき宝である」という哲学を受け止めた蒲島知事による「ダムなしの治水案を極限まで追及する」という発言をきっかけに始まった「ダムによらない治水を検討する場」では、回を重ねる中で、住民団体が提起した「自然の営みを重視した総合治水対策」（平成20年12月9日提出）の具体的な治水対策と重なるものも見受けられるようになりました。しかし「球磨川水系における治水対策の基本的考え方に対する意見書」（平成22年4月27日提出）でも指摘したように、依然として基本的な面で大きな隔たりがあります。また、具体的な治水対策でも住民にとって優先度の高い対策が「引き続き検討する対策」の項目に盛り込まれていますし、宝の川を破壊する治水対策が提示されているのも事実です。

球磨川最大支流の川辺川においても、こうした問題点が否めません。

流域住民は、川の恩恵を享受する生活の中で、大きな災害を防ぎながら洪水と共生する知恵を生活の中で培ってきました。例えば川と農地との間に水害防備林を設けることは、大きな災害を防ぎ洪水と共生する知恵の一つです。流域住民からすれば、こうした知恵の産物を破壊し、清流川辺川を連続堤防づけにすることや不必要な堤防嵩上げを行うことは、豊かな生態系を破壊するだけでなく、流域の水害を拡大させる、不適切な治水と言わざるを得ません。

さらに、川辺川流域における異常なほどの堆砂は、洪水時の水位を上昇させ流域での水害を拡大させ続けています。堆砂の浚渫は直ちに実施可能であり、かつ流域住民が強く望んでいる治水対策でもあります。

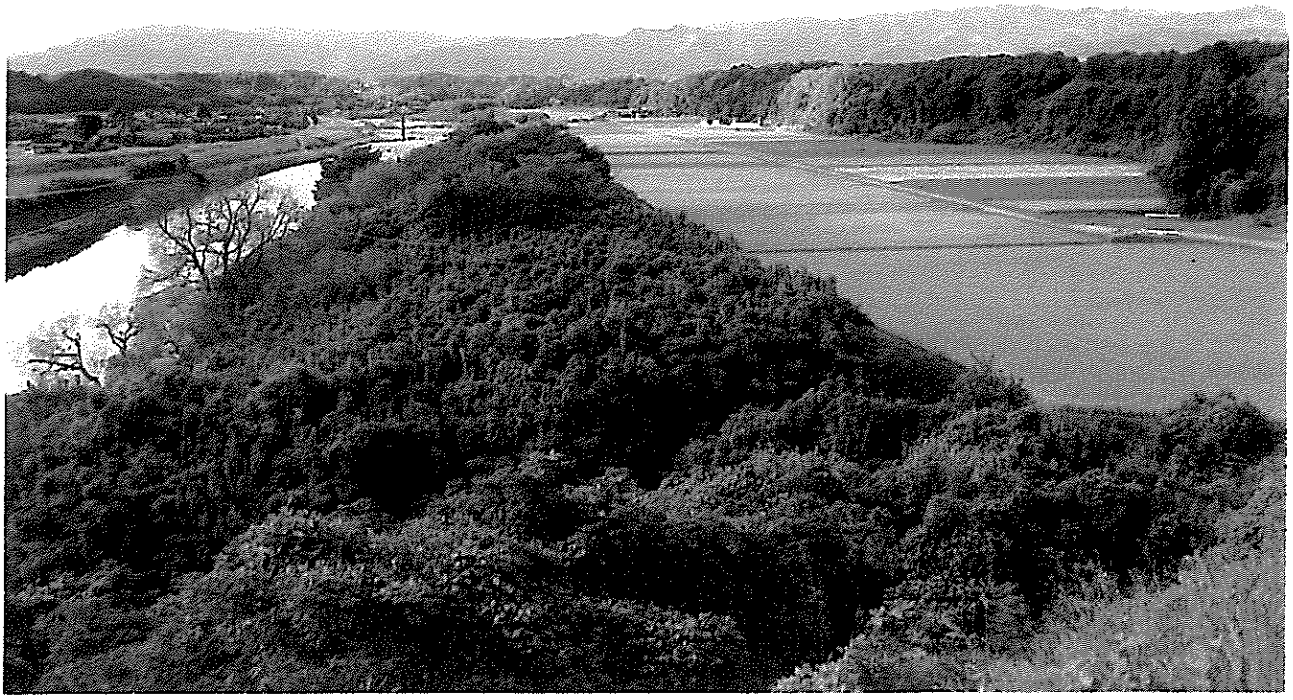
同時に、こうした川の堆砂は、山地の崩壊を物語っています。国交省は川辺川ダムによらない治水対策の取り組み方針で「上下流のバランス等を考慮」すると言及していますが、山地の崩壊の根本的な原因である森林の問題については、一切言及していません。

川辺川は国交省による水質ランキングで4年連続水質日本一に選ばれました。流域住民が望んでいるのは、豊かな生態系を育む清流を守り、清流を育んだ流域の自然と共生する水害防止対策です。

以下に、住民の望む川辺川の治水に関する意見を具申します。

＜相良村柳瀬 新村橋左岸＞

川と人が共生している典型的箇所
ここに築堤すれば、川を破壊してしまうことになる。
流域が育んできた歴史的遺産を破壊することは許されない。



写真左より　住宅地・堤防・川辺川・水害防備林・水田・高原台地

＜相良村柳瀬　新村橋より上流＞

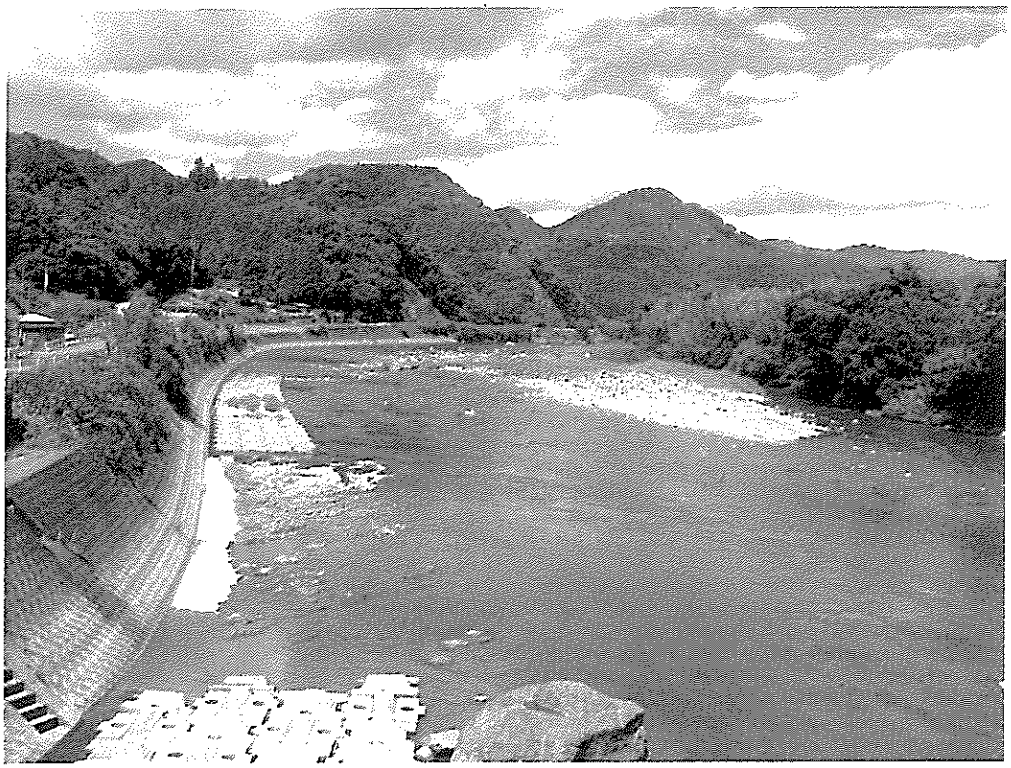
直ちに浚渫すること。
ここの堆砂の異常さは、流域の山地の破壊が進行している激しさを物語っている。

＜相良村川辺 川辺大橋下流 雨宮神社＞

浚渫工事を地元住民が一番望んでいる箇所である。
今すぐの浚渫工事を強く望む。

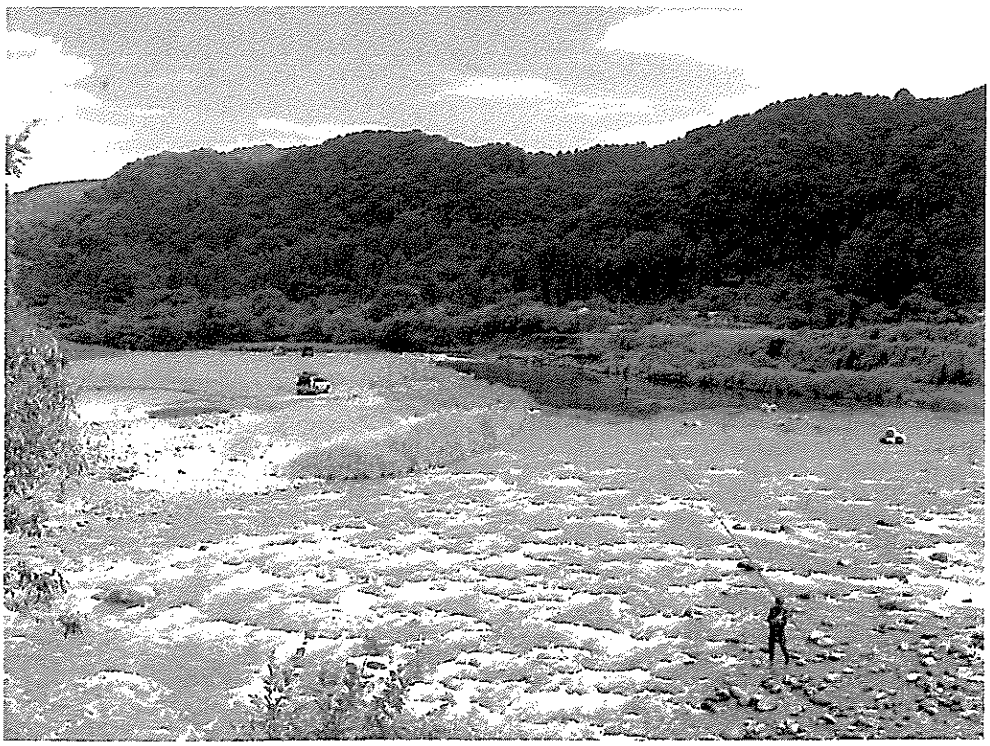
＜相良村永江 川辺大橋上流右岸＞

河川工学者がクレームをつける欠陥河床工事箇所。
再検討し、堤防嵩上げではなく正しい河床対策の実施を求める。



＜相良村川辺 廻 観音橋下流＞

今すぐの浚渫を求める。



＜ダムサイト予定地だった所＞

この箇所は素晴らしい淵であったところ。
上流の板木ダムの崩壊がもたらした異常な堆砂。
ダム崩壊のために起きた堆砂は直ちに浚渫すること。

＜相良村四浦 野原小学校跡＞

豊かな里山が川辺川を育んでいた。
ダム工事で破壊してしまった里山は、国の責任において再生すること。